

事故を防ぐために

① 低温やけどに注意

▶低温やけどを予防するためには、同じ部分に長時間熱をあて続けられないことです。厚手のタオルなどを巻いて身体から離して使用するなど、皮膚に長時間接触しないように注意しましょう。温度が設定できる場合はなるべく低い温度で使用しましょう。

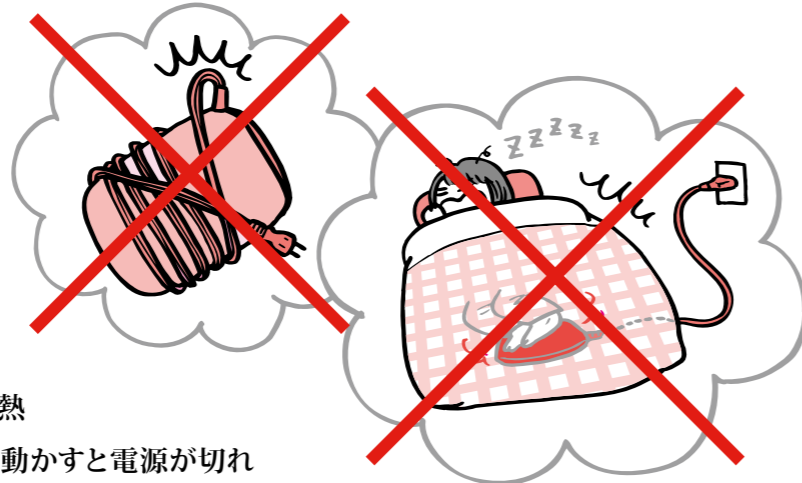
▶もし、やけどをしたと思われるときは、皮膚の表面が少し赤くなった程度でも皮膚の深くまでやけどが進行していることがあるので、すぐ病院に行きましょう。

② 電気あんかの取り扱い

▶コードの接合部を傷めると事故になるおそれがあるので、コードを本体に巻きつけたり、コードを過度に折り曲げたり引っ張ったりしないようにしましょう。また、コードを束ねた状態やねじれた状態で使わないようにしましょう。

▶電源プラグは根元まで確実に差し込み、使わないときは安全のためコンセントから抜きましょう。

▶長期間使用しているとコード類やプラグ・スイッチ類などの経年劣化が進みます。芯線のみ切れていてもコード等の外観には変化がなく見過ごしがちですが、プラグやコードが発熱したり、異臭がしたり、電源コードを動かすと電源が切れたり入ったりするなどの症状があるまま使い続けるのは危険です。気づいたらすぐに使用をやめ、点検に出しましょう。



●本内容は、独立行政法人国民生活センターホームページ内の「くらしの危険」コーナーにてダウンロードできます。

<http://www.kokusen.go.jp/kiken/index.html>

●本内容の一部を、独立行政法人国民生活センターホームページの「ご注意ください」コーナーに掲載しています。

<http://www.kokusen.go.jp/>

「くらしの危険」は、全国の消費生活センター、協力病院等から収集した情報をもとに、被害や事故の未然防止・拡大防止のために作られています。
 特定の商品・サービス等を推奨するものではありません。
 商品やサービス、設備によって起きた事故の情報を最寄りの消費生活センターにお寄せください。
 無断転載はお断りいたします。

独立行政法人
国民生活センター

〒108-8602 東京都港区高輪 3-13-22 TEL.03(3443)1208 ●2008年1月発行

くらしの危険 Number 281

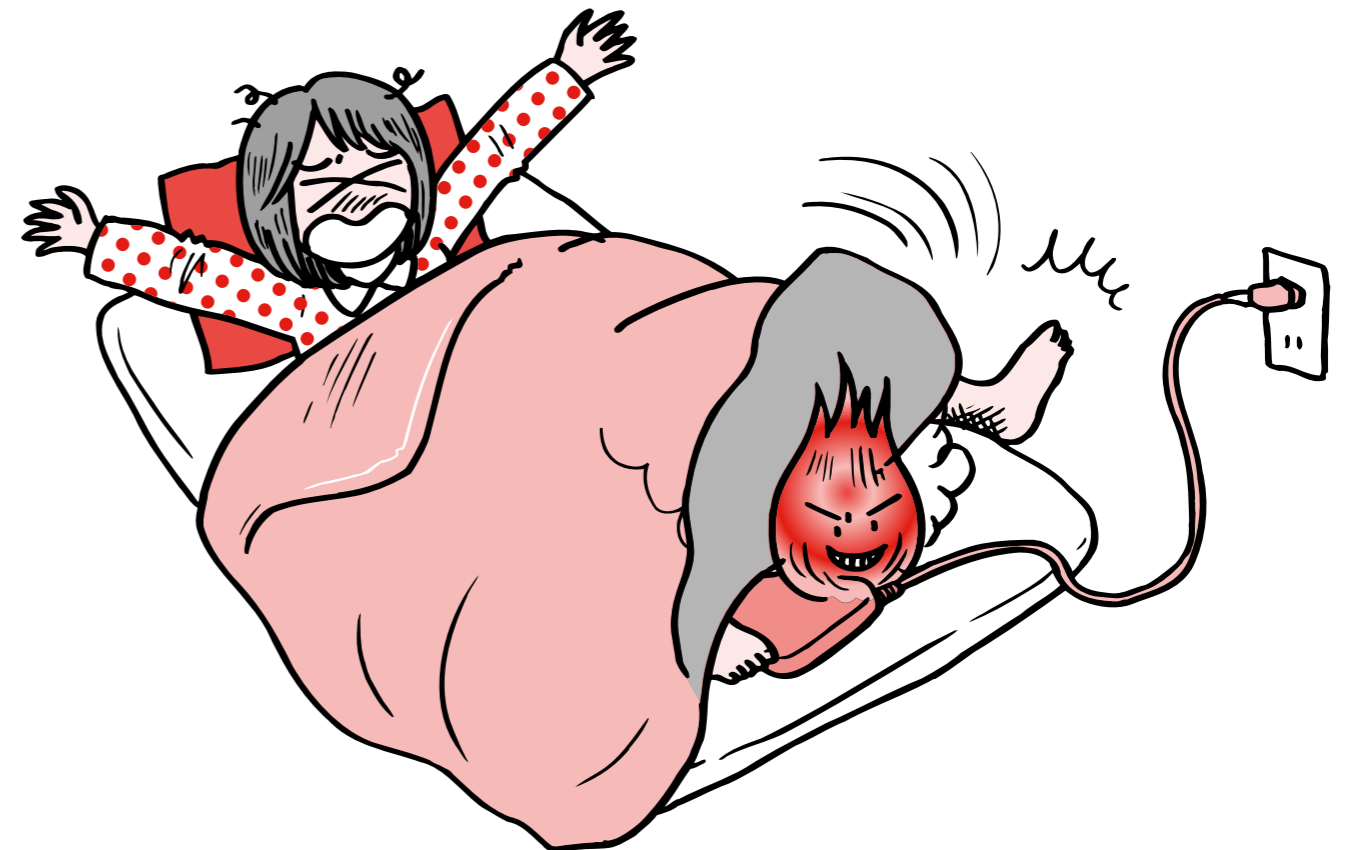
電気あんかの事故

電気あんかは、比較的安価であり、温度を一定に保つことができるので湯たんぽより手間がかからず安全な印象があります。

しかし、この電気あんかでやけどをした、電気あんかが発火した、こげたなどの事故が寄せられています。

電気あんかの事故は、10年間で100件近く寄せられており、そのうち約4割がけがをしています。

けがの内容はほとんどがやけど、それも低温やけどが多くなっています。そのほかにも、電気あんかにより布団が焦げた、コードから発火したなどの事故が多く寄せられています。



こんな事故が起きています

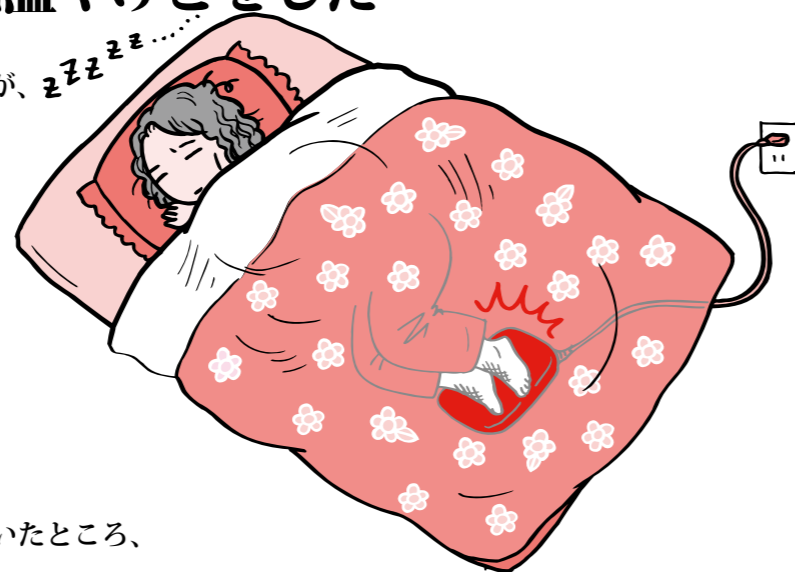


低温やけどをした

ケース 1 電気あんかを温度設定「中」にして足元に入れ、2～3時間就寝したら足首に低温やけどをした。
(事故発生年 1999年)

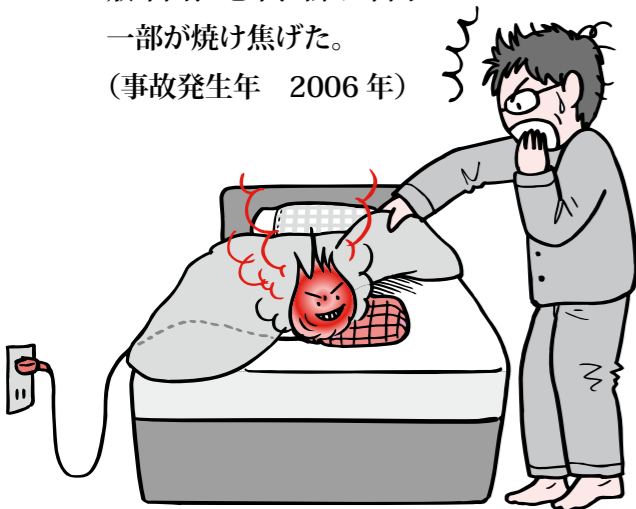
薬を飲んで寝てしまい低温やけどをした

ケース 2 睡眠効果のある薬を常用しているが、電気あんかに足を乗せて熟睡してしまい、朝起きたところ両足がやけどで腫れていた。
(事故発生年 2004年)



寝ている最中に発火した

ケース 3 寝床に電気あんかを入れたて寝ていたところ、突然足が熱くなって飛び起きた。毛布をはねのけると足元の電気あんかから炎が上がっていた。やけどはしなかったが、脚の毛が焦げ、敷布団、毛布、掛け布団の一部が焼け焦げた。
(事故発生年 2006年)



コード部分から火が出た

ケース 4 5～6年前に購入した電気あんかを布団に入れて30分ほどしたら、プスプスと音がするので見たら、いきなりコード部分から火が出た。毛布やシーツが焦げてしまった。入れたときは外見はまったく異常なかった。
(事故発生年 2006年)

低温やけどとは

体温より少し高い熱が数時間作用して起こるやけどが低温やけどです。低温やけどでは熱さや痛みをあまり感じないので、皮膚の損傷が最も深い重症のやけどに至るケースが多くなっています。特に、身体の中でも脚は、比較的知覚が鈍く血行が滞りやすいため低温やけどを起こしやすい部分です。

電気あんかの場合、脚の同じ部位が長時間あんかに触れることにより起きますが、熟睡や泥酔で熱に気づきにくい時にも起こっています。睡眠薬の常用者、糖尿病などで知覚障害のある人も要注意です。その他幼い子どもの場合も、熱いと感じても自分で温度調整ができない、身体から離せないなどで低温やけどを起こしてしまうことがあります。子どもは、皮膚が薄いため深いやけどになりやすく、治っても痕が残りやすくなります。

発火事故の原因を調査しました

ケース3については、メーカーに事故の連絡をし、原因究明調査が行われました。

その結果、事故品は17年前の製造で、事故の原因は電源コードのあんか側の付け根の部分でコードの芯線が断線したことにより徐々に通電が悪くなり発熱、ショートした結果、布団が焦げ発火に至った可能性が高い。断線の原因については、今までの使用過程で「折り曲げ」や「引っ張り」により断線箇所に繰り返し負荷が加わったためと考えられる、とのことでした。電気あんかから発火した、煙が出たなどの事故の大半がこのケースと同様にコードの断線が原因と見られます。これらの事故は長年使用している製品に多いようです。

断線の発生箇所はコードとあんか側の付け根部分に多く、コードの内部で芯線のみが切れても外観には変化がなく発見しにくいようです。

製品については、コードの接合部に過度の折り曲げが生じないように十分保護された構造でなければなりません。使い方についても、収納するためコードをきつめに巻きつけたり、使う時に過度に折り曲げたり、コードを引っ張ったりするとコードの接合部にはかなりの負荷がかかり、断線やショートの原因になると思われます。

また、あんか本体に巻きつけたコードを、ねじれを残したままほどく等を繰り返すと、強いねじれや屈曲による力によりコードの芯線が断線するおそれがあります。

